2005年2月28日（月）

【日刊】水産と食品ニュースみなと新聞　掲載

# 国内初の巻網ミニ船団「第88惣宝丸」誕生

# 効率経営型漁業実現

## 福島哲男・福島漁業社長に聞く

## 採算ラインを大幅圧縮

【八戸】福島漁業（青森県八戸市、福島哲男社長）は、国内初となる1カ統2隻編成の巻網ミニ船団を3月竣工、同月下旬から操業を始める。従来の巻網船団は本船（網船）と探索船、運搬船2隻の計4隻編成が一般的だが、新船団は本船の「第88惣宝丸」と運搬船1隻のみ。船団縮小によって初期投資を抑え、人件費や燃費などコスト削減も図り、少量漁獲でも採算のとれる「効率経営型漁業」を目指す。福島社長に巻網ミニ船団にかける想いなどを聞いた。

効率経営型漁業の実現を目指す福島社長

「20年ほど前に全国の巻網船主ら有志で『巻網21世紀の会』を立ち上げて以来、将来の巻網漁業の在るべき姿を議論してきた。水産総合研究センターが試験操業する北勝丸船団が運搬船との2隻体制で成果を上げていることもあり、代船建造は2隻体制が理想と考え、水産庁に一般企業としての受け入れを長年お願いしてきた。昨年3月、同庁が漁船漁業構造改革の一環で巻網ミニ船団化などの規制緩和策を打ち出し、現実のものとなったのは天にも昇る喜びだ」

「新船団の初期投資は従来の4隻編成に比べ3割減の15億円。乗組員は20人少ない30人となり、人件費を削減できるほか燃費も大幅圧縮した。採算ラインは3割減の6・5億～7億円を見込む。獲れないときのリスクを回避、漁獲量が3割減でも経営が成り立つ見通しだ」

「巻網漁業の生き残りにはミニ船団方式が不可欠。これは『巻網21世紀の会』の方々が中心となって実現したことでもあり、これから追随される方にお役に立てるようデータを蓄積・提供していく。何よりも恩返しのために成功しなくてはならない」